

平成 29 年度 文書館 2 月企画展（概要）

- 1 テーマ 『新修・北九州市史』 刊行
わがまち北九州の軌跡 ～ 昭和・平成～
- 2 目的
 - ・平成 29 年に発行された新修・北九州市史「市政編」「経済編」「写真集」の概要を紹介し、本文書館所蔵の現行北九州市史、旧五市各市史（市誌）等の展示を通して、北九州市の歴史を振り返り、市史等の活用を促進する。
- 3 日時：平成 30 年 2 月 1 日（木）～4 月 27 日（金）
- 4 場所：北九州市立文書館 1 階ホール 展示コーナー
- 5 展示物 約 100 点
（市史など 27 巻、写真パネル約 70 枚、その他 3 点）
- 6 展示物一覧

1 『新修・北九州市史』 3 巻

番号	資料名	解説	備考
1	『新修・北九州市史』 市政編	「総論」「1 章 北九州市の誕生成長」「2 章 活力ある都市を目指して」「3 章 持続可能な社会の実現に向けて」「4 章 人の集まるまちづくりの推進」「5 章 生活環境の向上を目指して」などについて、この 50 年間の経緯を記述している。 ※P1「目次」P2 総論「はじめに」より抜粋	平成 29 年 3 月 20 日 発行 B5 版 P769
2	『新修・北九州市史』 経済編	旧五市合併によって北九州市が発足した昭和 38(1963)年から半世紀・50 周年となった平成 25(2013)年までの北九州経済の歩みと到達点が記述されている。 「総論」「第 1 章 地域経済の展開」「第 2 章 産業行政の展開」「第 3 章 主要産業の展開」「第 4 章 企業活動と経済諸団体の動向」「第 5 章 新産業の動向・現状」で構成されている。 ※P1「目次」P2「総論」より抜粋	平成 29 年 3 月 20 日 発行 B5 版 P667
3	『新修・北九州市史』 写真集	大きく分けて、テーマ編と年表編で構成されている。 前半の「テーマ編」では、「1963 年北九州市誕生」「若戸大橋」「鉄道」「公害克服」など 24 の項目ごとに関連する写真を集めている。後半の「年表編」では、昭和 38 年より平成 25 年までの 50 年間の振り返り、各年見開きで写真と年表で構成されている。 掲載写真は、北九州市制 50 周年記念事業（写真 16 枚、2 ページ分）、北九州の「今」（写真 32 枚、2 ページ分）、北九州市の新旧（写真 25 枚、8 ページ分）、テーマ編（写真 748 枚、102 ページ分）、年表編（写真 505 枚、51 ページ分）である。	平成 29 年 3 月 31 日 発行 A4 版 P225

2 『北九州市史』 10 巻

番号	資料名	解 説	備 考
1	『北九州市史』 五市合併以後	昭和 58 年 2 月 10 日の新市発足 20 周年記念式典にあわせて刊行された。北九州市史の第一号である。 五市合併の経緯から新市の組織運営、産業、教育、人々の生活まで 8 編から構成され、市発足 20 年の歩みを編纂している。	昭和 58 年 2 月 10 日 発行
2	『北九州市史』 五市合併以後 補稿資料	「五市合併以後」で省かれた詳しい統計や施設名などの資料を補うために「補稿資料編」として刊行された。	昭和 59 年 2 月 29 日 発行
3	『北九州市史』 総論 先史・原史	北九州の生い立ちを、先史・原史時代の生活を中心に記述している。 北九州市域では、遠賀川や紫川流域、洞海湾地域等遺跡群が点在し、発掘場所や時期、石器・土器・装飾品等、出土物等を詳述している。	昭和 60 年 12 月 10 日 発行
4	『北九州市史』 近代・現代（教育/ 文化）	明治以降の時代の流れ、地域の特性を背景にして、北九州近・現代史のうち教育・文化・宗教について、その歴史過程を叙述している。 教育の項は、明治 5 年に学制発布に始まり、大正期には「教育県福岡」と言われ、戦時体制下及び戦後教育の再建等を詳述。文化面では、森鷗外、火野葦平、松本清張等の文化活動、娯楽等、北九州の特徴を記録している。	昭和 61 年 12 月 10 日 発行
5	『北九州市史』 近代・現代（行政/ 社会）	近・現代の事象のうち行政・社会について明治維新政府の成立から北九州五市合併に至るおよそ一世紀に近い時期を叙述の対象としている。 第一編は明治維新当初から諸制度の創始が続く明治十年代末まで。第二編はそれに次ぐ明治中期から太平洋戦争の終結に至るまで。第三編は戦後期から五市合併以前まで。	昭和 62 年 10 月 20 日 発行 A5 版
6	『北九州市史』 民俗	旧五市時代からの各地で伝承されてきた市民生活の習俗などを明らかにし、さらに、信仰伝承、民族芸能などの広い分野に至るまでをまとめている。 対象とする時期は、明治以降に設定し、付録として北九州市域方言集に 80 ページを割いている。	平成 元 年 10 月 1 日 発行
7	『北九州市史』 近世	小倉藩と福岡藩とで構成されていた近世（江戸時代）の郷土北九州で、それぞれの藩政下に庶民たちがどのような生きざまをしてきたか、藩としてどのような重要な役割を果たしてきたかを読みやすく叙述している。	平成 2 年 12 月 1 日 発行

8	『北九州市史』 近代・現代 (産業経済Ⅰ)	近代から現代における、北九州市域の産業の発達過程を主軸としている。明治以来、さまざまな産業経済の変遷を経て、戦前には、日本の四大工業地帯の一つとして、世界の注目をあび、戦後は経済復興の担い手となった。このようなあゆみの全貌を各分野の専門家によって考察し、叙述している。	平成 3 年 12 月 1 日 発行
9	『北九州市史』 古代・中世	古代からの北九州の生いたちと、中世の争乱の中で、嘗々と先人が築いてきた郷土の変遷を、わかりやすくまとめている。時代区分としては、大和時代から戦国時代までである。	平成 4 年 1 月 25 日 発行
10	『北九州市史』 近代・現代 (産業経済Ⅱ)	北九州市域の近代から現代における、産業の発達過程を主軸とし、Ⅰ巻の総論的内容に対して、各論ともいえる内容で叙述している。筑豊炭田を背景に発展した石炭・石灰石を基礎とする産業及び八幡製鐵を中心とする北九州の鉄鋼業について述べ、閑散とした町村が工業都市に変貌していく様子を叙述している。	平成 4 年 2 月 20 日 発行

③ 『旧五市 市史(誌)』 14 巻

番号	資料名	解 説	備 考
1	門司市史	本史は、大規模な門司港修築工事が竣工し、海外貿易が最も盛んだった時期に編纂されている。また、門司港が戦時には軍需品の輸送地であったことから、市史作成にあたり、掲載されている写真・地図には、下関要塞指令部検閲済印が押印されている。	昭和 8 年 3 月発行
2	門司市史 第二篇	五市合併にあたり、門司市史の後を受け継いで、昭和 8 年以降の市政運営の記録を中心に港都門司の 30 年間の推移を集録したものである。	昭和 38 年 2 月発行
3	小倉市誌 上編	上編には、古代から近世江戸期までを収蔵している。寛永以後の小倉には、小笠原氏の入国や島原出陣、慶応丙寅の変などの事象、城内・町の様子が記述されている。	大正 10 年 7 月発行
4	小倉市誌 下編	下編には、主に人物と明治以降の年表が収められている。また、復刻版(上巻・下巻)が昭和 50 年に再版された。初版以来五十有余年を経過し、入手困難となったため、地方史研究者の要望に応えたものであった。	大正 10 年 7 月発行
5	小倉市誌 續編	大正 9 年編纂の小倉市誌の続編である。明治以後現代を主に記述している。また、前編刊行後、小倉市に合併した板櫃町、足立村、企救町区域を追加掲載している。	昭和 15 年 12 月発行
6	小倉市誌 補遺	小倉市制 50 周年記念事業の一環として、昭和 25 年より編纂に取り掛かった。 小倉市と合併した曾根町、東谷村、中谷村、西谷村について詳細に記述している。	昭和 30 年 10 月発行

7	若松市誌	大正4年4月1日市制施行祝賀会に発行する予定であったが、種々の事情により発行が見合わされ、大正6年以降の各種統計を加えて大正10年に再版を発行した。	大正10年 4月 発行
8	若松市史	市制施行20周年記念事業の一環として編纂された。前後二編からなり、前編は古代より廃藩置県当初までの歴史、後編は主として市町村制以降の統計資料などが記述されている。	昭和12年 12月発行
9	若松市史 第二集	昭和12年に刊行された若松市史の続編として編集が行われた。昭和28年市制施行40周年記念事業の一環として企画された。	昭和34年 4月発行
10	八幡市史	古代の八幡史から記述が始まり、その多くを明治・大正・市政時代が占めている。 特に八幡に劇的な発展をもたらした八幡製鐵所の記録は60ページにも及び、八幡村村長 芳賀種義氏の「製鐵所設置請願運動の大要」としての口述記録は興味深い。 内容は、製鐵所建設に必要な土地買収に関わる政府側要求と住民との難しい交渉を潜りぬけ、八幡百年の大計を説き、最終的に住民に承諾を得るまでの記録である。 その功績が認められ、明治30年8月に当時の大隈重信農商務大臣より感謝状が贈られている。【感謝状は本館に掲示されている】	昭和11年 3月発行
11	八幡市史 続編	市制40周年記念事業の一環として、戦災復興で大変革した新しい八幡の歴史を編纂した。近代工業都市建設として、防火区計画や公園緑地、住宅復興、モデル工業都市等に取り組んでいったことが明記されている。	昭和34年 3月発行
12	八幡市史 終編	五市が合併し北九州市になるまでの4年間を編纂し、八幡市として歴史の最後を飾るものとなった。 主な内容は、市長の交代や4カ年の市議会の記録及び五市合併の実現が中心で、八幡製鐵所をはじめとする諸工場の設備の近代化、交通・通信等の革新などが記述されている。	昭和38年 2月発行
13	戸畑市史	近代の町政市政時代に最も紙面が割かれ、鉄道・港及び工場の進出など近代化されていく戸畑の様子が、市長の発表資料や発展に関わった人々の書物、市勢要覧等から引用されている。	昭和14年 12月発行
14	戸畑市史 第二集	市制施行35周年記念事業。内容は、前戸畑市史の洩れを補填し、昭和14年以降に主体を置いて編纂している。 背文字、扉文字は戸畑市長白木正元氏、題字は松本健次郎氏の自筆である。	昭和36年 3月 発行

4 写真パネル A3 (60) 枚 写真のみ A4 (29) 枚、A5 (20) 枚

◇北九州市制 50 周年記念事業 A3 4 枚

◇北九州の「今」 A3 4 枚

◇北九州の新旧 A3 12 枚

①北九州空港 ②八幡東区東田地区 ③産業医科大学・北九州学術研究都市 ④小倉駅周辺

○門司区(門司港レトロ地区) ○小倉北区(市役所本庁舎周辺) ○小倉南区(北九州市立大学

周辺) ○若松区(久岐の浜地区) ○八幡東区(JR 八幡駅周辺) ○八幡西区(JR 黒崎駅周辺)

○戸畑区(戸畑区役所周辺)

◇テーマ編 ◎A3 30 枚 ○写真のみ(A4 サイズ) 35 枚 ◇(A5 サイズ) 14 枚

◎1963 年北九州市誕生② ◎若戸大橋② ◎関門橋② ◎道路③ ◎鉄道② ◎路面電車③

◎モノレール① ◎空港② ◎バス① ◎船① ◎公害克服・大気② ◎公害克服・洞海湾①

◎公害克服・川① ◎環境都市① ◎市庁舎・区役所② ◎産業① ◎商業① ◎農水産①

○二つの都心② ○物流② ○門司港レトロ② ○若松南海岸・長崎街道② ○観光スポット②

○国際交流② ○住宅② ○◇上水道①② ○◇下水道①① ○◇ごみ①① ○◇緑化①①

○安全・安心② ○◇学校①② ○子育て② ○◇青少年①① ◇女性② ○◇高齢者①①

○◇障害福祉①① ○健康・医療② ○◇文化・芸術①① ○◇スポーツ①①

○祭① ○まつり・イベント① ○行楽① ○街角① ○風景・風俗①

◇年表編 A3 10 枚(縦版) ※写真・年表で 2 枚で 1 年分

○昭和 38 年(1963) →開庁式、第 1 回北九州市民体育祭

○昭和 47 年(1972) →新庁舎完成、関門橋ついにドッキング、旧松本邸国の重要文化財に

○昭和 55 年(1980) →西鉄北方線廃止、「戸畑祇園大山笠行事」国の重要無形文化財に指定

○昭和 63 年(1988) →「門司港駅」国の重要文化財に指定、「第 1 回わっしょい百万夏まつり」

○平成 23 年(2011) →環境未来都市に選定、「ていたん」、中学校給食完全給食スタート

5 その他

◇北九州市域の拡大地図(旧町村が市と合併した様子) A3 の 2/3 の大きさ

◇パネル 北九州市旗、市の花・木(つつじ、ひまわり、シンボルツリー) 等